

2019年度農林水産省行政事業レビュー(公開プロセス)の結果

食料産業・6次産業化交付金

<評価結果>

「事業内容の一部改善」

◇ 評価結果

現状通り	0 名
事業内容の一部改善	5 名
事業全体の抜本的な改善	1 名
廃止	0 名

<取りまとめコメント>

○事業の課題や問題点

- ・目的や対象者が異なる事業を大くりにしているため、活動実績、成果実績、費用対効果がわかりにくい。
- ・大くりに化については、情報開示の視点からは課題があろうが、一義的な窓口となる都道府県の現状を踏まえれば、やむを得ない面も想定され、そうした面も含めた中で検討する必要がある。
- ・事業目的が「所得や雇用の増大」「市場規模の拡大」「産業規模の拡大」であることから、本事業によるアウトカムは、所得や雇用、市場規模や産業規模を測るものでなければならない。現時点のレビューシートの成果指標は、そのような指標になっていない。
- ・食育事業について、事業とアウトカムとの因果関係が必ずしも明らかではない。
- ・結果的に予算配分に偏りが無いとしても、異なる事業をポイント制で競わせるのは論理的に無理があるように感じる。
- ・新商品が売り上げ目標に達しない要因の把握は重要であるが、把握したその要因が比較的、基本的な(原料の確保、労働力不足)ポイントがボトルネックになっているとある。事前の計画が甘くなっている点はないか。
- ・交付金事業を活用した事業は付加価値額も多いことが示された。成功は喜ばしいが、大成功事例を含めた平均値は、全体像をゆがめる可能性もある。注意が必要である。
- ・今次レビューのプロセスを通じて、ロジックモデルを作成いただき、精緻化が進み、事業の全体像がよく理解できるようになった(逆に言えば、このプロセス以前は、事業の全体像がきちんと整理されていなかったということ)。
- ・「加工・直売の取組への支援」のロジックモデルでインパクトの部分に「6次産業化等の取組の質の向上と拡大」と記載されているが、これでは「6次産業化のために6次産業化を推進している」ということになってしまう。
- ・食育の推進については、ロジックモデルにおける初期アウトカム、中期アウトカムの情報が不足している。都道府県それぞれの状況をタイプ別に整理しなおす等、事業の課題も含めた全体像が見えるように改善する必要がある。

○事業の改善の手法や見直しの方向性

- ・一つにまとめて事業とする必要があるか検討が必要である。国民にとって把握しやすいまとめかたを希望する。
- ・直接の事業対象別に分けるという方策もあるのではないか。大くりに化によって改善した部分もあることを理解したが、少なくともエネルギーについては農地活用の方策も異なり、類似事業もありそうなので、整理が必要なのではないか。
- ・レビューシートにおける成果指標を、事業目的に合うように、所得や雇用、市場規模や産業規模を測るものにする必要がある。その際、可能な限り、本事業による純粋な効果を抽出しなければならない。
- ・今次レビューのプロセスを通じて、明らかになった事業としての目的、成果目標(アウトプット、初期アウトカム、中期アウトカム、長期アウトカム)の見直しを反映されたい。とくに売上や利益のみならず、農林水産業関連の雇用が増えていく意義を踏まえれば、人件費等を含めた付加価値額を目標として設定することが求められる。
- ・異なる事業間での予算配分の基準については再考の余地があるのではないか。本当に現場レベルで納得感のある運用になっているのか。
- ・加工直売への補助はある意味投資なので、より精緻にフォローアップというか補助を受けた事業者のその後の推移を確認検証する必要があると思われる。
- ・(新商品の売り上げについて、原材料等の不足について)見通しが難しいのはご説明で理解できた。事業を行ったことによって、経営が厳しくなることが無いように、この成果は事業開始の際に周知してはどうか。
- ・今後も、こうしたプロセスを通じて、担当課がさらに事業の目的をより改善するために、具体的に何をすべきか、どんな専門性を発揮されるのか、より明確化されたい。(ロジックモデルの実践的活用)
- ・ロジックモデルを更に精緻化し、各指標を時系列で整理することにより、この事業の目的と達成状況をより正確に可視化していくべき。